

大磯町では、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「令和4年度全国学力・学習状況調査」を令和4年4月19日（火）に実施しました。

本調査は、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象としたもので、大磯町は小学生278名、中学生256名が参加しました。（※児童自立支援施設おおいそ学園内にある大磯町立国府小・中学校生沢分校に在籍する児童・生徒も含む。）

令和4年8月31日（水）に文部科学省からの調査結果公表を受け、令和4年度大磯町「全国学力・学習状況調査」結果分析・活用検討委員会を組織し、大磯町における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまいりました。このたび、調査結果の報告がまとまりましたので、次のとおりお知らせいたします。

大磯町の【特長】と（課題）

【特長】『大磯町では、児童・生徒は、必要な資質・能力を身に付けています』

⇒教科に関する調査の結果から、一部の科目（算数）に課題はあるものの、大磯町は全国及び県の平均正答率とほぼ変わらないことがわかりました。このことから、大磯町の児童・生徒は概ね必要な学力を身に付けていると言えます。また、児童・生徒が前年度以上にICT機器を活用し、学習に役立てるとともに、着実に情報活用能力の基礎を固めていると言えます。

（課題）『豊かで健やかな心身の育成を育む必要があります』

⇒教育活動全体を通して、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤を養えるよう道徳教育や人権教育の推進に努められるようにしていきます。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意して、教育施策・教育活動の改善に努めてまいります。保護者・地域の皆様には、大磯町の児童生徒の健やかな成長のため、今後も学校教育へのご理解とご支援をいただくとともに、折に触れて児童・生徒を褒め、自己肯定感が高まるように御協力くださるようお願いいたします。

1 教科に関する調査の結果から

【小学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき学力について指導していると言えます。一方で、全国的な傾向と同様に、「話すこと・聞くこと」の記述の問題や「書くこと」の一部については、やや課題がみられました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。 人物像や物語の全体像を具体的に想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝えたりする指導を取り入れしていく。 話し合いの目的や方向性を検討する場面を設定したり、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理する方法を指導したりすることを取り入れしていく。
--

【小学校算数】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して全体的にやや下回る結果となりました。

学習指導要領の領域等でみると、「数と計算」「図形」について課題があります。また、同領域の問題に対する無回答率が、全国や県と比較して高い結果となりました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none"> 被乗数に空位のある整数の情報の計算をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの数の最小公倍数を求めることができる。 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる。 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の場面や算数の学習の場面で最小公倍数や最大公約数を求める活動を取り入れ、具体的な数字を挙げながら確実に理解できるようにする。 図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質を基に、一つの図形に対して作図の仕方を多様に考えられるようにする。 問いに対して、単に「わからない」で済ませるのではなく、「ここまでは理解できている。」「この既習事項を使うことはわかる。」など、どの程度理解できているのかについて、児童一人ひとりに考えを持たせるような指導を工夫する。
--

【小学校理科】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき資質・能力について指導していると言えます。一方で、全国的な傾向と同様に、結果を分析して解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述することに課題があります。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる。	<ul style="list-style-type: none">・自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えを持ちその内容を記述できる。・予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができる。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

<ul style="list-style-type: none">・観察、実験などの課程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにする。
--

【中学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。但し、全国的な傾向と同様に、「書くこと」「我が国の言語文化に関する事項」の一部については課題が見られました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none">・事象や行為、心情を表す語句について理解する。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

<ul style="list-style-type: none">・伝達性や表現性などを考えながら、目的や必要に応じて効果的に文字を書くために、行書の基礎的な書き方を身に付けるよう指導していく。・自分の考えが伝わる文章を書くために、自分の考えとそれを支える根拠とのつながりに留意して、工夫して書くことができるよう系統的に指導していく。

【中学校数学】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

一方で、学習指導要領の領域等で見ると、全国的な傾向と同様に、「図形」の領域において解の求め方について説明をしたり、記述したりする力には課題があります。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・自然数を素数の積で表すことができる。・目的に応じて指揮を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none">・反例の意味を理解している。・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

<ul style="list-style-type: none">・推測した事柄について考察する場面で、事柄の理解を深めたり反例を見つけたりするために、仮定に当てはまる図をかいたり、具体的な数をあげたりする場面を設定する。・図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見いだすことや、統合的・発展的に考察することができるようにする。

【中学校理科】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき資質・能力について指導していると言えます。一方で物理的・科学的分野において、知識・理解とともに、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を説明することに課題があります。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的・総合的に検討して改善できる。・動物の異なる部位について、体のつくりと働きを分析して、解釈できる。・地層の広がりについて、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できる。	<ul style="list-style-type: none">・日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できる。・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力と釣り合う力を矢印で表し、その力を説明できる。

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善する学習活動の充実。原子や分子のモデルを基に、「粒子」を柱とする領域に関する知識及び技能を身近な現象で活用する学習活動の充実を図る。

2 児童生徒質問紙調査の結果から

【小学校】

「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）」、「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」、「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」のそれぞれの質問に対して、全国及び神奈川県との回答と比較して、大磯町の児童は“ほぼ毎日”あるいは“週3回以上”使っていると回答している割合が高くなりました。これは、授業での一人一台端末の使用に関して、着実に学校が指導に活かしている成果と言えます。

また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して、肯定的に回答した児童が全国及び神奈川県の数値と比較して高い水準となりました。これは令和2年度から始まった新しい学習指導要領において明記されている、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の成果が少しずつ現れてきたと言えます。

その一方で、「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して、肯定的に回答した割合が、全国及び神奈川県と比較してやや低い結果となりました。

これからも児童の興味・関心を引き出すとともに、分かりやすい授業を目指して、学校では教員研修等を実施していきます。

【中学校】

「1，2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対して、“ほぼ毎日”あるいは“週3回以上”使っていると回答した生徒の合計の割合が、国及び神奈川県と比較して30ポイント以上高い結果となりました。これは、授業での一人一台端末の使用に関して、着実に学校が指導に活かしている成果と言えます。

一方、「1，2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」、「1，2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問に対して肯定的に回答した割合が、全国及び神奈川県と比較して同程度かまたはやや低い結果となりました。

今後は一人一台端末を利用しながらも、そこで考えたことをもとに、新たな考えや価値を生み出したり、自分と異なる考えの他人と対話をする中で自分の考えを深めたりするような学習活動を取り入れていきます。

また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、“当てはまる”と回答した生徒の割合が、全国及び神奈川県と比較して10ポイントほど低い結果となりました。これからも学級活動や道徳の時間など、教育活動全体を通じて、生徒自らがいじめは絶対にいけないことであると考え、理解し、自他を大切にできるような学校づくりを目指していきます。

3 家庭や地域の皆様にお知らせしたいこと

- ・児童生徒質問紙の質問への回答状況と各教科の調査結果を比較すると、次のような児童生徒に、全ての教科で平均正答率が高い傾向がみられます。(必ずしも因果関係を示したものではありません。)

【小学校】

- 朝食を毎日食べている。
- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりのテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間が、1時間以上、2時間より少ない。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている。
- 新聞をほぼ毎日読んでいる。
- 読書が好き。
- 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがよくある。
- 地域の行事に参加している。

【中学校】

- 朝食を毎日食べている。
- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりのテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間が、1時間より少ない。
- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たり携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする時間が、30分より少ない。(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)
- 家に201～500冊くらい本がある（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）

4 大磯町教育委員会から

町教育委員会では、本調査の分析結果を各学校に提供しました。学校では、町全体の結果をもとに、各校の詳細な結果の分析と考察を進め、成果と課題を明確にしました。今後の教育活動において、成果についてはさらなる充実と、課題については全校挙げての解決に取り組んでまいります。

今回の調査結果から、町は全国・県と同程度の学力を児童・生徒へ概ね指導できていることが明らかとなりました。その一方で、教科の領域によっては課題が見られる内容もありました。こ

れについては、全ての教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでいきます。

町教育委員会では、平成 25 年度からの 4 年間と、さらに令和 3 年度から、神奈川県教育委員会より「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」を受託し、研究を進めてまいりました。そして、この成果を一時的なものとしてこの先も継続させていくために、平成 29 年度から「大磯学びづくり研究推進事業」を拡充し、町内の全小・中学校が研究推進校として、様々な研究・研修会を企画及び実施することを通じて、教員の資質向上とともに日常の授業の改善・充実に努めているところです。

また、「日常授業の改善・充実のための幼・小・中相互訪問事業」を実施し、校種の異なる教員が校区の園・学校を訪問し、普段の授業を見せ合いながら、授業づくりについて考える機会を整えております。今後も新学習指導要領を踏まえた授業改善に向けて、町教育委員会としても、全ての学校・教職員に対して必要な研修等の機会を設けていくとともに、必要な支援を行ってまいります。

特に ICT 機器の利用については、児童生徒質問紙調査の結果を見ても使用頻度において非常に高い成果が出ています。これを機に、次の段階として、ICT 機器をただ使うだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善につながるよう、「ICT 機器をどう活用するか」を考えていきます。

最後になりますが、大磯町は「子育て・教育環境の向上」のために、より様々な取り組みをしていきます。教育委員会と学校は、家庭や地域との連携を図り、協力をいただきながら、未来を生きる大磯町の子どもたちのために必要な力を育成していきたいと思っております。今後も学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。